

平成23年2月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町1-684 TEL0428-23-6859）

御 岳 古 道

多摩川の南（右）岸、青梅市友田と奥多摩町古里を結ぶ道路を、一般には「吉野街道」と呼んでいるが、正式には「主要地方道45号奥多摩・青梅線」と称する。このコースは、青梅から武蔵御嶽神社への参道としても利用され、『御嶽菅笠』や『玉川泝源日記』などにも記録されている。柚木町三丁目から御岳一丁目に向かって、昭和27年以前のコースを紹介しよう。

柚木町三丁目にある築瀬橋を渡った場所から数m先にある左手（南）側に延びる山道が、昭和27年までの旧道である。幅員は2.2～2.5mであるが、築瀬橋から400m前後進んだ場所は広く、約4.5mの幅員となっている。自動車が交差し易くするため、広がっているのであろう。広がっている場所から約100mで、御岳トンネルの上に着く。

トンネルの東側入口から50m前後離れた位置に、移築されたかつての「武蔵御嶽神社一の鳥居」が立てられ、そこから東側へ10m離れた位置に「御嶽山碑」が、西側へ約6m離れた位置に「武州御嶽山碑」が移築されている。青梅市教育委員会が立てた説明板によると、これらの碑は、かつては旧道より7～8m高い位置を通る古道の脇に立てられていたが、明治19年（1886）に旧道が開設された際、現在の位置に移築されたという。

鳥居の型式は神明鳥居である。台石から笠木の天端までの高さは約3.2m、台石から貫の下までの高さは約2.3m、笠木と島木は両端がいくぶん反り上っており、両端の幅は約4.5m、柱の基礎の部分での幅は約2.5m、柱の円周は約90cmといった規模である。額束はコンクリート製で、額は見当たらない。なお、鳥居の材質は、安山岩である。

武蔵御嶽神社に向かって左側の柱には、大きな書体で「文化七庚午歳七月吉日 村中奉納」と書かれ、その下には13人の発願者の名前が彫られている。右側の柱には、賛同し、寄進した人たちとして地元の柚木村や御嶽村の人々が8名、それに江戸八丁堀や深川の人たちの名前が彫られている。

「御嶽山碑」は石灰岩の基壇の上に載る、細長い砂岩の自然石を利用したもので、高さ約85cm、最大幅約70cmの大きさである。側面には「是ヨリ四二丁」と書かれ、裏面には

‘文化二乙丑年春三月／御嶽村／清水重右衛門貞榮建之／桃溪篆□□’と書かれている。

「武州御嶽山碑」は安山岩の切石で、高さ約 118cm、幅約 61cm、厚さ約 21cm の大きさである。一行目には‘武州御嶽山碑’と書かれ、二行目からは‘武之金峰山在’で始まる文章が 15 行書かれ、最後に‘文化三歳次低卯春三月 青梅 岸鳳質文卿謹撰／東都 庫山人箕哉書’と記されている。

さて、鳥居や石碑が立てられている道路(旧道)は、すでに述べたように、明治 19 年(1886)に開設されたが、それまでは旧道より 7～8 m 高い位置を通る古道に立てられていた。古道は自動車が交差するため、広くなっている場所から 50m 前後離れた位置から左手(南)側に、幅 20～30cm の作業道のような状態で続き、90m 前後進んだ位置で峠に着く。峠付近一帯は、利用されていた当時の状況が良く残っている。南側の山地末端は削り取られたため 2 m 前後の急崖で、道幅は約 2 m である。東側は緩やかな登りであるが、西側は砂岩からなる小丘の中央を比高 2 m 前後、掘り下げている。峠の北側には奥行き 7～8 m で、周囲を急崖に囲まれた三角形をした平坦地があり、急崖の直下には移築された鳥居がある。この平坦地に、かつては茶屋が立っていたのであろう。

峠の西入口から 15～16m で、御岳トンネルの西側入口の上にあるフェンスに達する。なお、鳥居や石碑が立てられている旧道は現在ほとんど利用されておらず、現地に行くのは危険が伴う事に注意して欲しい。

(文責 角田 清美)



旧一の鳥居

御嶽山碑

武州御嶽山碑

江戸東京たてもの園において特別展「武蔵御嶽神社と高尾山薬王院」が 4 月 10 日(日)まで開催されています。武蔵御嶽神社から「懸仏」や「釣燈籠」などの貴重な文化財が出展されている他、様々な貴重資料が展示・解説されています。是非ご覧ください。

江戸東京たてもの園は月曜日休園(月曜日が祝休日の場合はその翌日)になります。
(ただし 3/22(火)・28(月)、4/4(月)は開園)